

【プログラム#3】 デジタルの活用例、リアルとの使い分け

10月30日(水) 12:55~14:00

ファシリテーター

大谷 洋二
三菱自動車工業(株)

スピーカー 1

相川 貴之
いすゞ自動車 (株)

スピーカー 2

Wim Van Roy
WFFMM Vice Chairman

CSR活動のバーチャル化と企業博物館の将来展望（拡張する企業博物館の価値）

スピーカー：相川 貴之（いすゞ自動車（株））

- バーチャル社会科見学
近隣小学校はリアル、遠隔地はバーチャルとハイブリットでの小学生向け工場見学
- CSRのバーチャル化取り組み
オンラインいすゞお仕事紹介、交通安全やものづくりに関する情報発信を目的としたいすゞタウン
- いすゞプラザを活用した各種体験教室の実施
ペーパークラフト教室、交通安全教室
- いすゞプラザバーチャルコンテンツの充実
ジオラマ/シミュレーターに加え、いすゞが目指す「運ぶ」の未来を体感できる
未来展示ブースの作成を検討

AIの進化 - モーターミュージアムの変革

スピーカー：Wim Van Roy (WFFMM Vice Chairman)

人工知能 (AI) を中心としたデジタル革命はキュレーション (学芸活動)、保存、来場者の参加を向上させ、自動車博物館のありかたを再定義しています。
本プレゼンテーションでは、ChatGPT、Bard、Copilot、画像生成技術、予測メンテナンスのための機械学習など、AIツールの一部を紹介し、それらの連動により博物館体験と自動車の歴史の保存を高める方法を示します。AIを活用した対話型ガイドのためのチャットボット、歴史的な車両の可視化のための画像生成AI、来場者の好みに合わせた展示物のためのデータ分析など、実践的な応用も探求します。